



Coleman® Stove 取扱説明書



保証書付 保証書は、この取扱説明書の裏表紙についています。

Feather™ Stove Model 442

警告

1. この器具は屋外専用です。使用中は多量に酸素を消費します。屋内、車内、テントの中もしくは換気の悪い場所では使用しないでください。
2. コールマン純正ホワイトガソリンは発火点が低く大変危険です。火気からは1 m以上離して使用し、取扱いには充分注意してください。
3. 可燃物、引火物の近くでは使用しないでください。
4. 燃料の給油及び点火作業の際にはまわりに火気のない、換気の良い場所で行ってください。室内、車内等換気の悪い場所、火の気のそば及びくわえタバコ等での作業は絶対にしないでください。
5. 使用中もしくは消火後の燃料タンクが熱せられている時は、絶対に燃料キャップを開けたり、給油作業をしないでください。

注意

1. 使用する前に必ず取扱説明書をよくお読みください。
2. この器具は屋外専用調理器具です。その他の目的に使用したり改造したりしないでください。
3. 燃料はコールマン純正ホワイトガソリンをご使用ください。非常時には、自動車用無鉛ガソリンも使用できますが、無鉛ガソリンを連続使用すると、ジェネレーター内部が詰まり、交換が必要となります。
4. 燃料は火気の近く、湿度が高い、高温な車内等温度が40度以上になる場所には保管、放置しないでください。
5. 使用中や使用直後は、バーナー、グレート（ごとく）などの部分は高温になっていますので手を触れないでください。やけど等の原因になります。
6. テント、スリーピングバッグ、衣類等の燃えやすい物からは、上部1.2m以上、左右50cm以上 離してお使いください。
7. 子供、幼児の手の届く所に置かないでください。
8. 専用の付属品以外の物を使用すると本体部分に変色したり、思わぬ事故になることがありますので使用しないでください。

純正燃料

アメリカコールマン本社の、分析表をもとに精製した、高純度ホワイトガソリン。



4ℓ



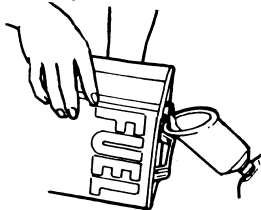
1ℓ

失敗しない燃料注入方法

新しい4リットル缶からこぼさない注ぎ方は、注ぎ口を上にして缶の中に空気が入りやすくすると、簡単に入れられる。



注ぎ口を上にして、この角度から入れるとこぼさない。



目次

警告・注意……………2

純正燃料……………3

失敗しない燃料注入方法……………3

ストーブ各部の名称と役割……………4

分解図とパーツリスト……………5

ガソリンタイプ燃焼器具の基本的な仕組み……………6

正確で力強いポンピングによる空気圧が最大のポイント……………6

空気圧不足が燃焼不良の原因……………6

高い空気圧が強火力の秘訣……………6

ガソリンは信頼できるスタンドで……………6

1 燃料を入れる……………7

2 ポンピング……………8

ポンピング操作上の注意……………9

チェックバルブ機能の点検……………9

3 点火……………10

点火時の注意……………10

4 火力調節……………11

5 消火……………11

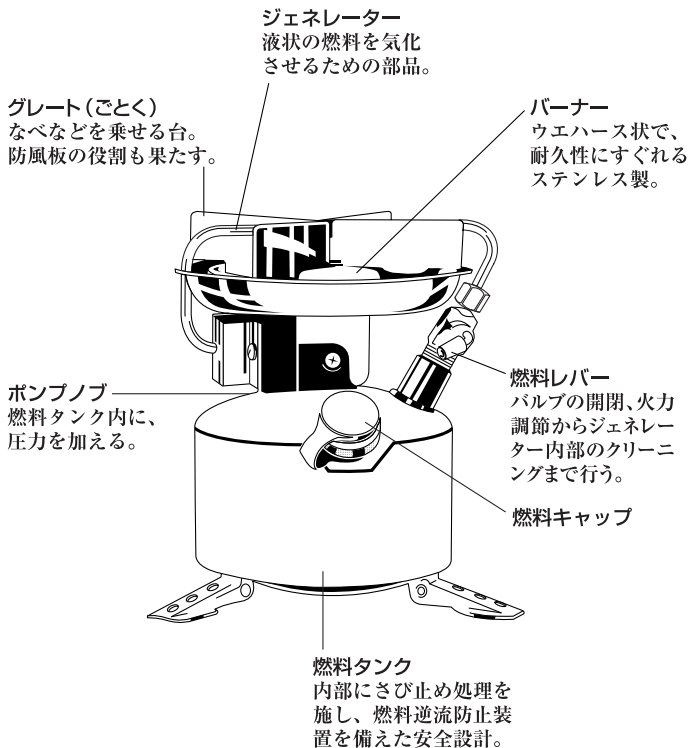
6 収納・保管……………12

7 メンテナンス……………13

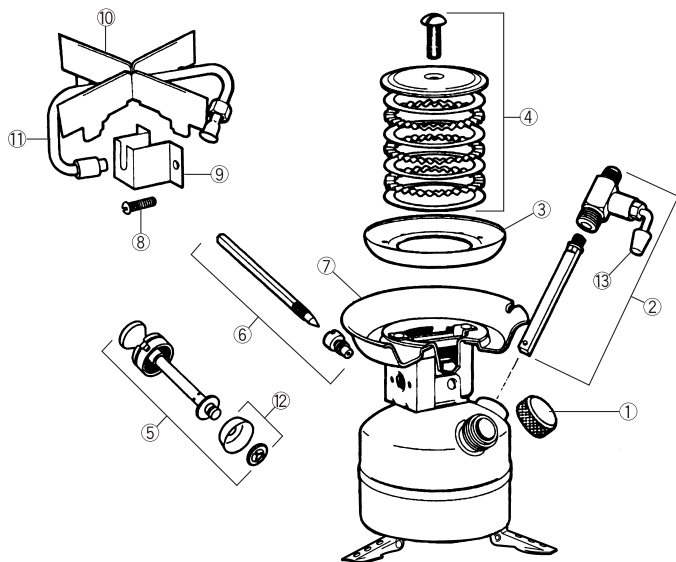
ジェネレーター交換の手順……………13

ポンプカップ交換の手順……………14

ストーブ各部の名称と役割



442ストーブ 分解図とパーツリスト



パーツNO.	英語名	パーツ名
①222-1401	Filler Cap	燃料キャップ
②400-5551	Valve Assy.	バルブ一式
③413C3021	Burner Bowl	バーナーボウル
④400-3451	Burner Ring Set	バーナーリングセット
⑤400E5211	Pump plunger Assy.	ポンププランジャー一式
⑥400-6381	Check Valve & Air Stem	チェックバルブ&エアーステム
⑦400-5261	Burner Box Assy.	バーナーボックス一式
⑧400-0601	Screw	スクリュー (ネジ)
⑨400A1261	Generator Bracket	ジェネレーター固定用金具
⑩400-5401	Grate	グレート (ごつく)
⑪533-5891	Generator	ジェネレーター
⑫R216-111T	Push on Nut & Pump Cup	プッシュオンナット、ポンプカップ(ゴム)
⑬502-175	Handle Tip (Red)	燃料レバー用つまみ (赤)

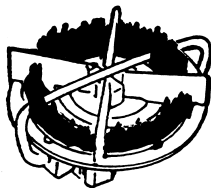
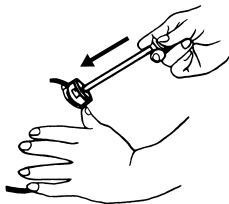
表示のパーツは2004年1月1日現在のものです。価格組み合わせは、予告なく変更することがあります。

ガソリントイプ燃焼器具の基本的な仕組み

正確で力強いポンピングによる空気圧が最大のポイント

コールマンの、ガソリンを燃料とする燃焼器具は、すべての共通システムになっている。

- ①ポンピングで、燃料タンク内に空気圧を加える。
- ③バーナーやマンツルの燃える熱で、ジェネレーター内部を通る燃料が気化される。



- ②燃料バルブの操作で、圧力のかかった燃料が空気と一緒に、噴霧状になってジェネレーター内に送られる。
- ④気化された燃料が、大気中の酸素と混じりあって燃えるので、ススの出ない地球環境にやさしい、クリーンな炎で燃焼する。



高い空気圧が強火力の秘訣

ジェネレーター内に送りこまれる燃料が、噴霧状になることが気化させるポイントとなる。空気圧が高いほど勢いよく押し出され、噴霧状になりやすく気化しやすい。したがって、空気圧が高いほど点火操作も簡単で、効率よくきれいな燃焼が得られる。

燃料は純正ホワイトガソリン

燃料は純正ホワイトガソリンを使用してください。非常時には自動車用無鉛ガソリンも使用できますが、無鉛ガソリンを連続使用するとジェネレーター内部が詰まりやすくなり、交換が必要となる場合があります。

空気圧不足が燃焼不良の原因

燃焼不良の原因のほとんどが、空気圧不足。必ず固くなるまで強くポンピングし、連続使用する場合は、頻繁にポンピングする。

修理

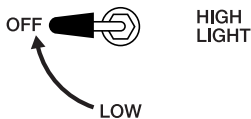
ストーブの修理は、燃料を抜いて、保証書と一緒に、お買い求めの販売店にご依頼ください。

1 燃料を入れる



必ず、アウトドア(屋外)の火気のない所で行ってください。

- ①燃料レバーを右に止まるまでまわす。



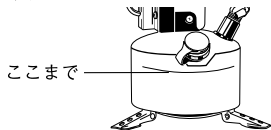
- ②ポンプノブを、右に止まるまでまわす。



- ③燃料キャップをはずす。



- ④ストーブを水平に置いて、注入口からあふれない位(8分目程度)に燃料を入れる。



- ⑤燃料キャップを、固めにしめる。

燃料満タンの目安

ガソリンフィルターを使った場合

- ①ストーブを水平に置き、ガソリンフィルターを正確に押し込み、燃料を入れる。



- ②缶から燃料が入らなくなったら、注入をストップ。ちょうど満タンの量になる。

⚠ 本製品にフューエルファネルを使って燃料を入れる場合、燃料注入後にファネルを燃料タンクから持ち上げたときに、ファネル内の余ったガソリンがファネルの注ぎ口からこぼれます。燃料タンク内の注油量を目視で確認しながら燃料を入れてください。

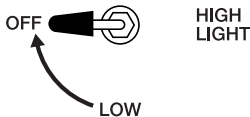
⚠ 燃料の入れ過ぎに注意

燃料を入れ過ぎるとポンピングにより加圧するスペースがなくなり、液状のままのガソリンがバーナー部に放出され、不完全燃焼の原因になります。また、燃料が少な過ぎると炎が途切れたり、不安定な燃焼になります。

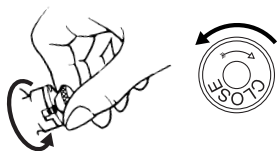
2 ポンピング

燃料タンク内に空気圧を加えます。

- ①燃料レバーを「OFF」にセットする。 ④手前に引いて、奥まで押しこむ正確なストロークを繰り返す。

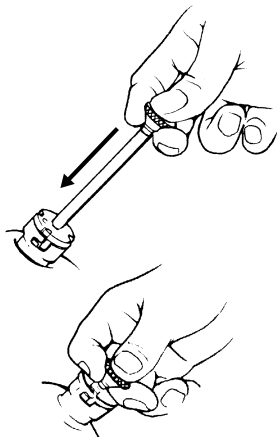
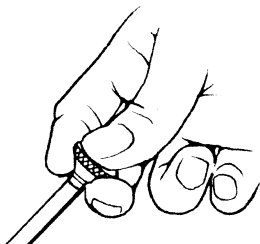


- ②ポンプノブを、左に2回転させる。



⚠ 堅くて回らない時はプライヤー等で左に回してください。(特に新品購入時は堅い場合があります。)

- ③親指でポンプノブの穴を押さえ、人差し指と中指を添える。



⚠ ポンピング時に引っかかり等を感じる場合はリユブリカントを注入してください。

- ⑤25回以上を目安とし、燃料タンク内に圧が充分かかり、ポンプの抵抗が強くなるまでポンピングする。

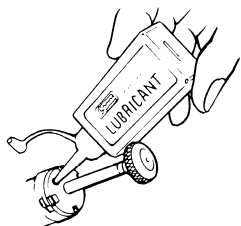
- ⑥ノブを押し込んで、右に止まるまでまわす。



ポンピング操作上の注意

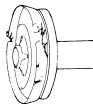
⚠️ ポンプカップの乾燥

ポンプカップが乾燥していると、ポンピングしてもひっかかる感じや軽すぎる感じで、空気が入らない。ポンプキヤップの「OIL」と表示のある穴から、リユブリカントを2~3滴注入する。



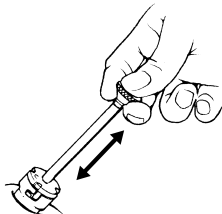
リユブリカント
ポンプカップ専用特殊オイル

⚠️ 乾燥した状態で、無理にポンピングすると、ポンプカップがめくれるなど、破損の原因となります。



⚠️ ポンピングは正確に

燃料タンクに垂直になるように、正しくストロークする。力を入れ過ぎて、間違った方向に押し、エアーステムを曲げるなど、故障の原因となります。



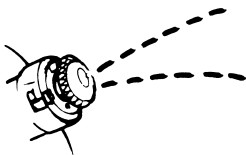
⚠️ ポンピング時は、引き過ぎに注意

ポンピングをする際、手前に引く時は8分目位の所までとし、最後まで引っ張らないこと。引っ張り過ぎるとプッシュオンナットが外れ、ポンプブランジャーが外れる場合がある。外れた場合はP.14の組み立て方を参照してください。

チェックバルブ機能の点検

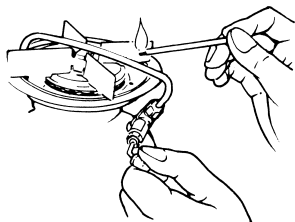
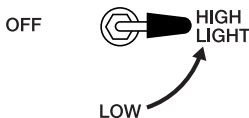
⚠️ ポンピング操作直後に点検する

ポンプノブ先端の穴から燃料が吹きでる場合は、チェックバルブ機能不良。空気圧を抜いて修理に出してください。



3点火

- ①柄の長いライターなどの火をバーナーに近づけ、燃料レバーを「HIGH/LIGHT」にセットすると点火する。



- ②点火直後、30回以上ポンピングする。

点火時の注意

⚠ 炎は上にあがるので、点火するときは、ストーブの上にかがみこまない。

⚠ 必ず火を先に入れてから燃料つまみを開いてください。先に燃料つまみを開くと不完全燃焼の原因になります。

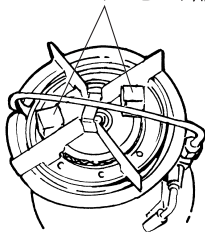
⚠ 点火時に多量の空気を使うので点火直後ポンプノブが固くなるまで、十分に追加のポンピングをする。

⚠ バーナー以外から炎が出る場合は、燃料の出すぎか燃料漏れが原因。燃料レバーを「OFF」にセットする。消火後、再度取扱説明書をよく読んで、正しい手順で点火操作を行ってください。

⚠ 炎が安定しない場合は燃料バルブを「OFF」と「HIGH」の間で素早く2～3回往復させ、ジェネレーター内部の穴を掃除して燃料の通りをよくすると、すぐに安定した炎に変わります。

⚠ 外気温0度以下の時は、ジェネレーターの下、バーナーキャップの上に、少量の固形燃料などを置き、プレヒート後点火する。

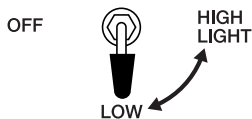
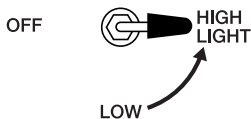
プレヒート用固形燃料



4 火力調節

①火力調節は燃料レバーで行う。

②「HIGH」が強、「LOW」方向が弱。

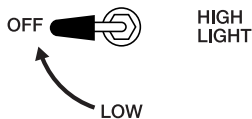


⚠ 液体燃料を気化させてから燃焼させていますので、気体燃料(LPガス)器具のようにハッキリと火力の強弱が表示の位置通りにはなりません。

5 消火

①燃料レバーを「OFF」と「HIGH」の間で、数回往復させる。

②燃料レバーを「OFF」にセットする。




③ジェネレーター内部に残っている燃料がなくなるまで2～3分位燃えるが、しばらくすると消える。

⚠ 消火直後は、バーナー、グレート(ごつく)などの部分は高温になっていますので手を触れないでください。やけどの原因になります。

6 収納・保管 ストープ本体が完全に冷えてから行う。

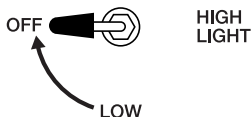
- ①車のトランクなどで運ぶ時や、使用後に保管する場合、短期間であれば燃料を抜き取る必要はありませんが、空気圧は抜いてください。空気圧は燃料キャップを徐々に緩めると抜けます。
- ②シーズンオフ等で長期間(半年以上)保管する場合は、燃料を完全に使いきってタンク内を空にしてください。完全に燃料を抜く場合は別売りの「残ガス抜き取りポンプ」を使うと便利です。
- ③幼児、子供の手の届く所に保管しないでください。

 器具を収納・保管・運搬する場合は、火気の近く、湿度が高い、高温な車内等温度が40度以上になる場所には収納・保管しないでください。

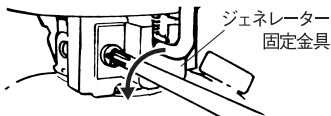
7 メンテナンス ジェネレーター交換の手順

⚠ 点火しにくい、完全燃焼しない、いつもより火力が弱い。
このような場合は、ジェネレーター交換してください。

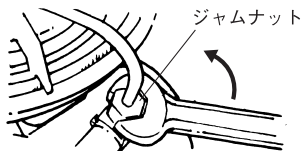
- ① 燃料レバーを「OFF」にセットする。 ⑤ ジェネレーター先端を、本体から抜き取り、ジェネレーターを横にスライドさせながらはずす。



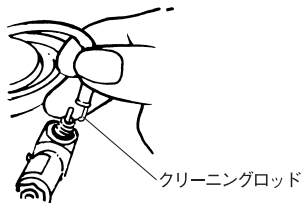
- ② ジェネレーター固定金具をはずす。



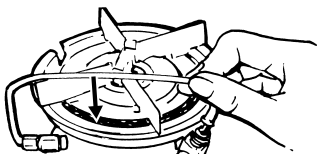
- ③ ジェネレーター取り付け部の、ジャムナットをゆるめる。



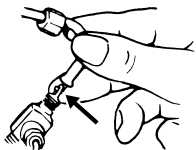
- ④ ジェネレーターを持ち上げ、クリーニングロッドをはずす。



- ⑥ 新しいジェネレーターを、ごとくのくぼみに合わせ、先端を本体のジェネレーター差しこみ口に入れる。



- ⑦ クリーニングロッドを、バルブ先端の穴に引っ掛け、ジェネレーターのラップ状の部分をバルブ先端にかぶせジャムナットで固定する。



- ⑧ ジェネレーター固定金具を取りつけて完了。

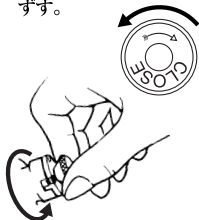
⚠ 交換後点火操作を行い、燃料漏れがないか確認してください。

ジェネレーターは消耗品です。常時、予備のジェネレーターをご用意ください。

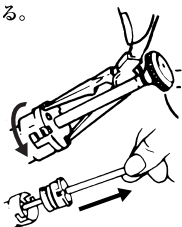
ポンプカップ交換の手順

⚠️ ポンプカップ破損、損傷または外れた時は、ポンピングしても空気が入りません。
ポンプカップを交換するか、再度組み立て直してください。

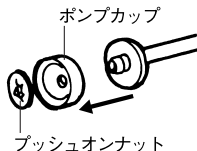
- ① ポンプノブを左に10回転以上回し、チェックバルブからエアシステムをはずす。



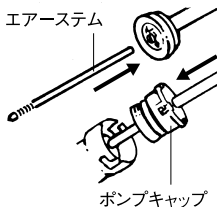
- ② ラジオペンチなどで、ポンプキャップを左にまわし、ポンプノブを抜きとる。



- ③ ポンプカップを固定している、プッシュオンナットをはずし、損傷したポンプカップを取りのぞく。



- ④ ポンプカップにリユバリカント(専用特殊オイル)をつけ、エアシステムをポンプブランジャーの中に入れ、ポンプノブをセットする。



- ⑤ ポンプキャップを固定する。

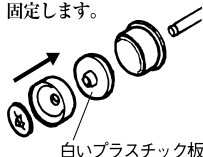


- ⑥ ポンプノブを右に止まるまでまわして、交換完了。



ポンプブランジャーの組立て方法

⚠️ ポンプカップが外れてしまった場合は、ポンプキャップを外すと中にエアシステム、白いプラスチック板、ポンプカップ、プッシュオンナットがシリンダー内に残っているはずですので、それを取り出す。エアシステムは左に10回転以上回すと取れます。ポンプキャップ、白いプラスチック板(向きに注意)、ポンプカップ、プッシュオンナットの順で組み立て、固定します。



⚠️ ②の段階で、エアシステムに曲がりがないか確認し、変形していたら交換してください。

⚠️ エアシステムが曲がっていると、ポンピング操作が固くなり、チェックバルブ破損の原因になります。

常時、ポンプリペアキットの携行をお勧めします。

